



「富士十景朝日」吉田博 当館蔵

時を経て、
浮世絵が新しく生まれ変わる。

新版画。それは浮世絵が衰退した大正時代に、伝統木版画の復興と近代化を目指した、新しい木版画として生み出されました。吉田博、川瀬巴水などの画家たちによる新版画は、新たな日本美術の出現として、日本国内や海外で衝撃をもって迎えられました。

2023年度展覧会

新版画という 創造

11/18(土)～12/17(日)



NAKAGAWA-MACHI
BATO HIROSHIGE MUSEUM OF ART

令和5年度(2023年)
展覧会のご案内



那珂川町馬頭広重美術館

展覧会スケジュール

2023.4 ▶ 2024.3

前半:4月8日(土)~5月7日(日)

後半:5月13日(土)~6月18日(日)

企画展

広重の東海道五十三次

—浮世絵でつづる
江戸から京への旅—

広重の代名詞ともいえる「東海道五十三次」。季節や天候、時間の移ろいなどを織り交ぜながら描かれたその浮世絵は、人々の旅へのあこがれをかきたて、心の旅へとigsawなりました。当時の人々は街道でどんな風景を見て、どんな経験ををしたのでしょうか。広重の浮世絵を眺めながら、江戸日本橋から京三条大橋まで125里(約500km)の旅に出かけましょう。



「東海道五拾三次之内 四日市 三重川」歌川広重

特別展

7月8日(土)~8月20日(日)

旅する大津絵展

—かわいー! たのしい!
江戸庶民の気みやげ—

東海道の天津周辺で販売された大津絵は、土産物として旅人たちの人気を博し、江戸時代の庶民にとって浮世絵に並ぶ身近な絵画作品でした。明治以降は国内外の画家や著名人により収集の対象となります。愛嬌のあるユーモラスな姿の美人や鬼、動物たちは、現代の私たちが見ても楽しめるものばかり。時代を超えて人々の心を惹きつけてきた大津絵の世界をご堪能ください。



「鬼の念仏」(公益財団法人日動美術財団所蔵)

8月26日(土)~11月12日(日)

※10月2日(月)~10月5日(木)は、一部展示替えのため休館

特別展

入江明日香展

—浮世絵が結ぶ江戸と現代—

江戸の浮世絵と、現代作家のコラボレーション。入江明日香(1980~)は銅版画カラージュ、水彩描写による独特な技法で制作するアーティストです。鮮明な青色のほかしや渦巻く波の描写など浮世絵を連想させるものが多く、現代と過去を織り交せるかのような神秘的な世界を一枚の作品の中に創り上げています。本展覧会では、その制作に影響を与えた江戸の浮世絵も同時に展示し、江戸と現代を結び付けながら入江明日香の世界をご紹介します。



「黒雲妖炎籠園」入江明日香(部分)

特別展

11月18日(土)~12月17日(日)

新版画という創造

浮世絵は、明治時代になると次第に勢いを失っていきませんが、大正時代には、伝統木版画の復興と近代化を目指した新しい木版画が生み出されました。高い芸術性を備えたこの「新版画」は、新たな日本美術の出現として、国内外で衝撃をもって迎えられました。本展では、川瀬巴水や吉田博など「新版画」で活躍した画家たちのさまざまな作品を紹介します。



「石鐘山」吉田博

公募展

12月23日(土)~2月4日(日)

那珂川町を描く

—心に残る風景—

テーマは「那珂川町」。心に残る那珂川町の風景を募集します。どなたでも応募可、小中学生も応募できます。応募作品は審査後に馬頭広重美術館の展示室で展示予定です。詳しくは応募要項をご覧ください。



(イメージ)

企画展

令和6年2月10日(土)~3月24日(日)

タイムスリップ・明治

—夭折の絵師井上安治の「東京」—

26歳の若さでこの世を去った夭折の浮世絵師・井上安治。師である小林清親の画風を引き継ぎ、光や影を巧みに表現した新しい浮世絵「光線画」で四ツ切判というハガキほどの小さな画面に明治の東京のすがたを遺しました。文明開化の東京風景は安治の目にどう映ったのでしょうか。井上安治、小林清親の光線画から、140年前の東京の町を偲びます。



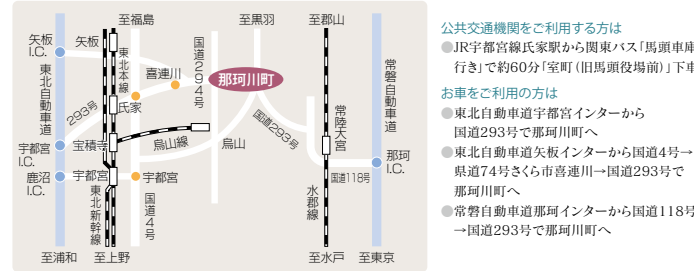
「浅草奥山園」井上安治 当館蔵

令和5年度 那珂川町馬頭広重美術館 展覧会カレンダー

2023 4							5							6								
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土		
						1	1	2	3	4	5	6							1	2	3	
2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10		
9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17		
16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24		
23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31												
						1																
2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9		
9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16		
16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23		
23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30	31	24	25	26	27	28	29	30				
						1																
1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4												
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9		
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16		
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23		
29	30	31	26	27	28	29	30	24	25	26	27	28	29	30								
						1																
1	2	3	4	5	6	1	2	3														
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	3	4	5	6	7	8	9		
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	10	11	12	13	14	15	16		
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	17	18	19	20	21	22	23		
28	29	30	31	25	26	27	28	29	24	25	26	27	28	29	30							

■ 企画展 ■ 特別展 ■ 休館日

交通のご案内



毎月第3日曜日は家庭の日 中学生以下のお子様をお連れのご家族は観覧料が無料になります。

- 企画展観覧料 = 大人 500円(450円) 高・大学生 300円(270円)
- 特別展観覧料 = 大人 700円(630円) 高・大学生 400円(360円)
- ()内は、20名以上の団体料金
- ※中学生以下は無料 ※障がい者手帳等をお持ちの方・付き添いの方1名は半額
- 開館時間 = 午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日 = 月曜日 祝日の翌日(祝日の翌日が土・日曜日は開館) 年末年始
- ※展示替えのための臨時休館があります。

那珂川町馬頭広重美術館

〒324-0613 栃木県那須郡那珂川町馬頭116番地9 TEL.0287-92-1199 FAX.0287-92-7177
<http://www.hiroshige.bato.tochigi.jp/>